

平成25年度「住民基本台帳の一部の写し」閲覧状況の公表

住民基本台帳法ならびに住民基本台帳の一部の写しの閲覧及び住民票の写し等の交付に関する省令に基づき次のとおり公表します。

1. 申出者の氏名：株式会社 ビデオリサーチ（代表取締役社長 秋山創一）
共同申出者：日本たばこ産業 株式会社（たばこ事業本部 M&S戦略部長 中野恵）
 2. 利用目的の概要：2014年「全国たばこ喫煙者率調査」の対象者抽出のため
 - 閲覧の年月日：平成26年1月21日
 - 閲覧に係る住民の範囲：大字別所
- 請求事由の概要：自衛官等の募集に伴う広報
- 閲覧の年月日：平成26年1月28日
- 閲覧に係る住民の範囲：町内全域
- 平成8年4月2日から平成9年4月1日までの間に生まれた男子
平成11年4月2日から平成12年4月1日までの間に生まれた男子
- ◆ 問い合わせ先
住民課 住民担当 ☎ 6570

自殺をなくそう 防ごう



◆ サインを見逃さない

「私には関係ない」と思わないで
自ら命を絶つ人は毎年約3万人です。自殺未遂者はその10倍の30万人、家族や友人、職場など影響を受ける周囲の人は未遂者の5〜6倍の百数十万人といわれています。

自殺を考えている人からは、眠れない、食欲がない、口数が減ったなどのサインがあります。こうしたサインに気づいたら、まずは「どうしたの？」と声をかけましょう。私たち一人ひとりが身近な人の体調を気遣い、話を聞くなどして心理的に孤立させないことが大切です。

◆ 追い詰められた末の死

自殺は個人の自由な選択の結果と思われがちですが、様々な悩みにより心理的に追い詰められた結果、こころの病気を抱え「自殺しか方法がない」と思いつく人が多くいます。

◆ 問い合わせ先

保健センター ☎ 6574



感雑向綿

日野町長 藤澤直広

田んぼをわたる秋風に稲穂が揺れています。いつの時代も収穫の秋はうれしいものです。20年ほど前、兼業農家が増える中で農作業を効率的に行うため、集

落宮農が注目されました。農作業機械の共同利用は「上手くいくのかなあ」という懸念もありましたが、機械代が高くつくなかで、経費を削減して効率的な作業が行えることに魅力がありました。何度も作業の方法や資金繰りなどを相談し、清田営農組合が発足したのは平成4年度。農業改良普及員の方から「個人では持てない『羨ましがられる』機械を入れなアカン」「オペレーター代は高いほうが良い」などとアドバイスを受けたことを思い出します。導入されたトラクターはキャンピング付でラジオ・エアコン装備、田植機は6条植えの施肥付き、コンバインは4条刈りのグレンタンク、合計約1200万円。10数人が参加すれば100万円以下の負担で格段に高い作業効率が可能になります。

機械の更新可能な資金計画を立てられ、今では26人が参加する「ふあむ清田」に「成長」しました。農業が続けられるのは、まさに集落宮農のおかげです。最近、小作に出されていた田んぼが戻ってきて、地主が耕作者に復帰されています。「軽トラと草刈り機があれば百姓ができる」をキャッチフレーズにふあむ清田の仲間が7人も増えました。ある40代の青年は「田んぼを長いこと世話してもらってきたさかい」と頑張っています。

農村と農業は切り離せません。農道や用排水路の管理、水利の調整など人手が入ります。「農」は文化であり民俗です。大規模農家も小規模農家も営農組合もあつて維持できるものだと思います。農政が転換し大規模農家への土地の集積ばかりが施策誘導され、「離農促進」すら「奨励」されています。PPP交渉が秘密裏に進められています。何もかも市場競争原理で上手くいくものではありません。自然と向き合い、コミュニティを大切に助け合って生きる社会をめざし力を合わせましょう。